



2025年度 太平洋いわし類長期漁海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2026年4月～7月)のポイント

海況

黒潮は、N型^(※1)基調で推移するものの、一時的にB型^(※1)またはC型^(※1)となる。

沿岸水温は、薩南～紀伊水道外域は「**平年並**」^(※2)～「**高め**」^(※2)、熊野灘～遠州灘～相模湾は「**低め**」^(※2)～「**平年並**」、伊豆諸島北部海域は「**やや低め**」^(※2)～「**平年並**」、伊豆諸島南部海域は「**やや高め**」^(※2)～「**高め**」、房総海域～常磐南部海域は「**平年並**」～「**高め**」で推移する。

※1 黒潮を遠州灘沖から伊豆諸島周辺海域の流路で分類する

N型：八丈島の北を通過、南端が北緯33度以北

B型：八丈島の北を通過、南端が北緯32度以北かつ33度以南

C型：八丈島の南を通過

※2 平年並＝平年値±0.5℃程度、

やや高め・やや低め＝平年値±1.0℃程度、

高め・低め＝平年値±1.5℃程度、

ただし、鹿島灘～常磐南部海域の基準は次頁末尾を参照のこと。

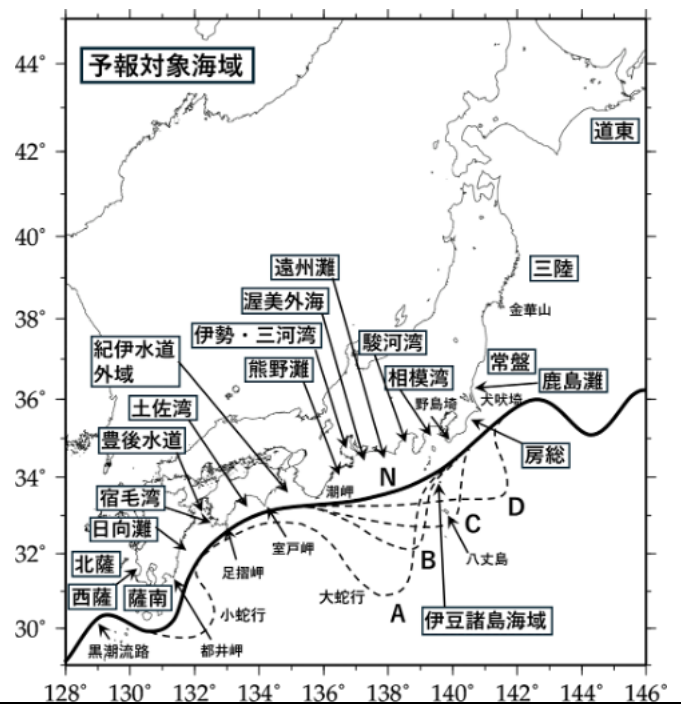
漁況(来遊量予測)

マイワシ

駿河湾以東は前年を下回り、伊勢・三河湾以西は前年並～上回る海域が多い。

カタクチイワシ

熊野灘以西では前年並～下回る、伊勢・三河湾以東では前年並～上回る。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構
担当

漁況：浮魚資源部（横浜） 大島、由上、渡部、木下

海況：海洋環境部（横浜） 亀田、伊藤

電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001

当資料のホームページ掲載先URL

<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>

中央ブロック海況予報

今後の見通し（2026年4月～7月）

(1) 黒潮（注：黒潮流型は図1を参照のこと）

◎潮岬以西

- ・都井岬沖では、離岸傾向で推移する。
- ・足摺岬～室戸岬沖では、5月以降は離岸傾向で推移する。
- ・潮岬沖では、接岸傾向で推移するものの、小蛇行の東進に伴い一時的に離岸する。

◎潮岬以東

- ・N型基調で推移するものの、一時的にB型またはC型となる。
- ・遠州灘沖では、接岸傾向で推移するものの、一時的に離岸傾向となる。
- ・八丈島付近では、流路が短期的に変動する。
- ・房総沖では、擾乱の東進に伴い離接岸する。

(2) 薩南～房総海域

- ・潮岬以西は、一時的に黒潮系暖水が波及する。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、黒潮の接近や黒潮系水の波及に伴い暖水に覆われる。
- ・伊豆諸島南部海域は、概ね暖水域となる。
- ・房総沖は、断続的に黒潮系暖水の影響がみられる。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・断続的に黒潮系暖水の影響がみられる。

(4) 沿岸水温

- ・薩南～紀伊水道外域は、「平年並」～「高め」で推移する。
- ・熊野灘～遠州灘～相模湾は、「低め」～「平年並」で推移し、暖水波及時には「やや高め」～「極めて高め」となることがある。
- ・伊豆諸島北部海域は、「やや低め」～「平年並」で推移し、B型時には「高め」～「極めて高め」となる。
- ・伊豆諸島南部海域は、「やや高め」～「高め」で推移する。
- ・房総海域～常磐南部海域は、「平年並」～「高め」で推移する。

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、
（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上
（鹿島灘～常磐南部海域では、平年並＝平年値±1.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.6～3.9℃程度、
（高め、低め）＝平年値±4.0～6.0℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±6.1℃以上）

経過（2025年12月～2026年3月）（注：経過は図2を参照のこと）

(1) 黒潮

- ・ C型基調で推移した。
- ・ 2月以降、八丈島付近で流路が短期的に変動し、B型とD型を重ね合わせたようなW字状の流型がみられた。

(2) 薩南～房総海域

◎薩南海域

- ・ 黒潮北縁は、1月は「離岸」、2月は「平均的な位置」、3月は「接岸」で推移した。

◎潮岬以西

- ・ 都井岬沖～潮岬沖では接岸傾向で推移した。

◎潮岬以東

- ・ 熊野灘～遠州灘では、断続的に黒潮系暖水が波及した。
- ・ 2月中旬、黒潮は八丈島付近を北上した。
- ・ 3月上旬、黒潮は御前埼沖で北上した後、八丈島東沖を南下し、犬吠埼沖から再び北上するW字状の流路となった。
- ・ 野島埼沖では1月下旬～2月中旬に、犬吠埼沖では2月中旬～下旬に離岸した。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 黒潮系暖水の影響が断続的にみられた。

現況（2026年3月23日現在）

(1) 黒潮

- ・ N型流路である。
- ・ 八丈島北沖を北東に流れ、南東に小さく蛇行した後、犬吠埼沖を北東に流れている。

(2) 薩南～房総海域

◎潮岬以西

- ・ 都井岬沖で離岸している。
- ・ 足摺岬～潮岬沖で接岸している。

◎潮岬以東

- ・ 伊豆諸島北部海域は、冷水に覆われている。
- ・ 伊豆諸島南部海域は、暖水に覆われている。
- ・ 房総沖で離岸している。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 黒潮系暖水に覆われている。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、都井岬沖～御前崎沖では川合（1972:海洋物理Ⅱ、東海大学出版会）、野島崎沖では清水（1989:千葉水試研報）に準じた。

※ 黒潮流型の分類は、吉田ほか（2006:海の研究）に準じ、さらに詳細な分類には海上保安庁の定義（<https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/KAIYO/qboc/exp/yougo.html>）を補助的に用いた。

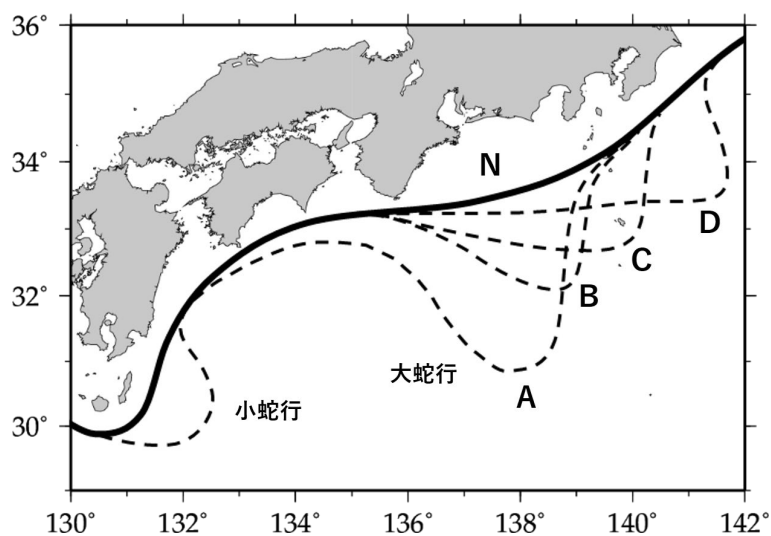


図1 黒潮流型の分類

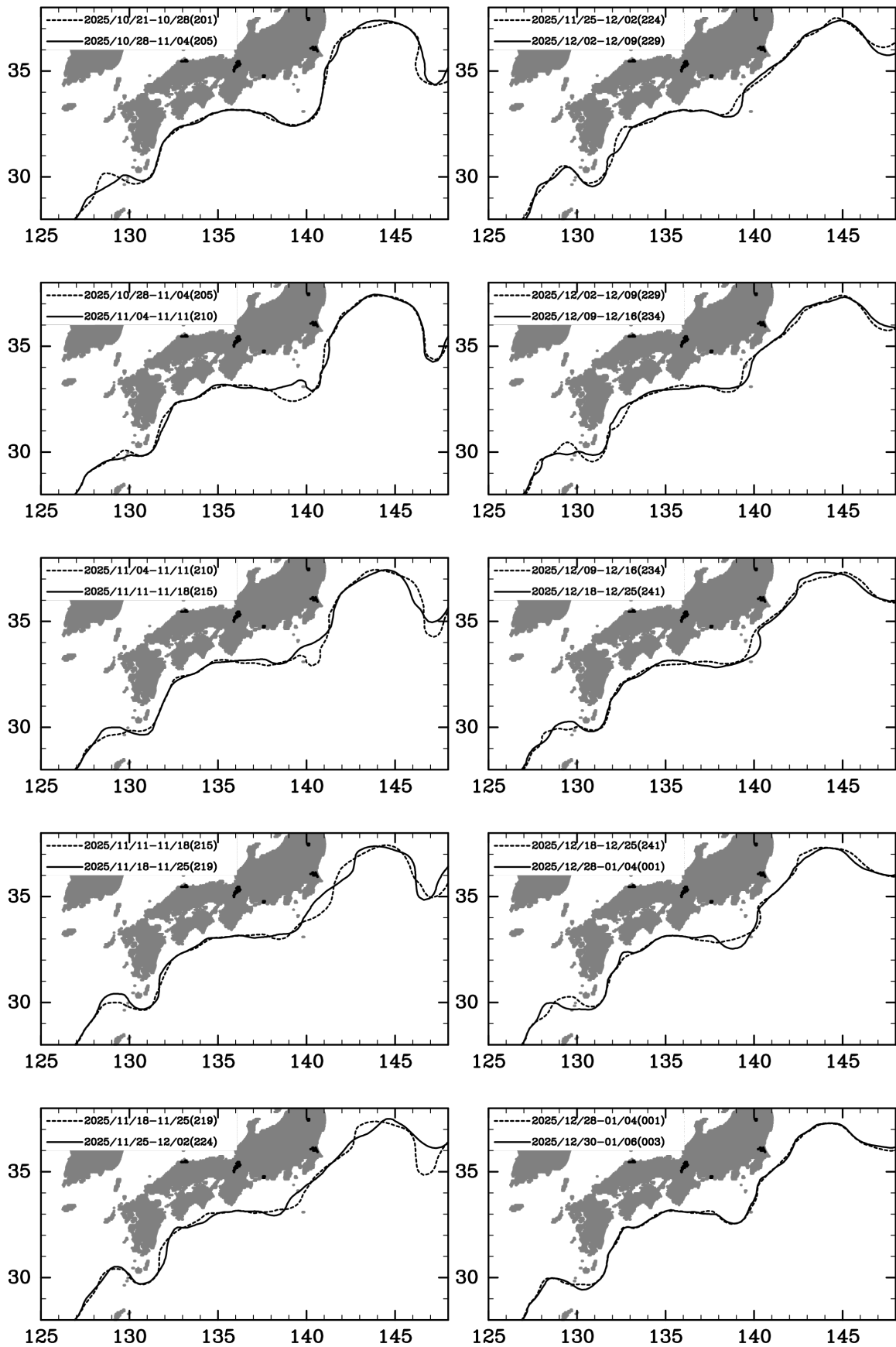


図2 黒潮流軸のパターン

(2025年10月~2026年1月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

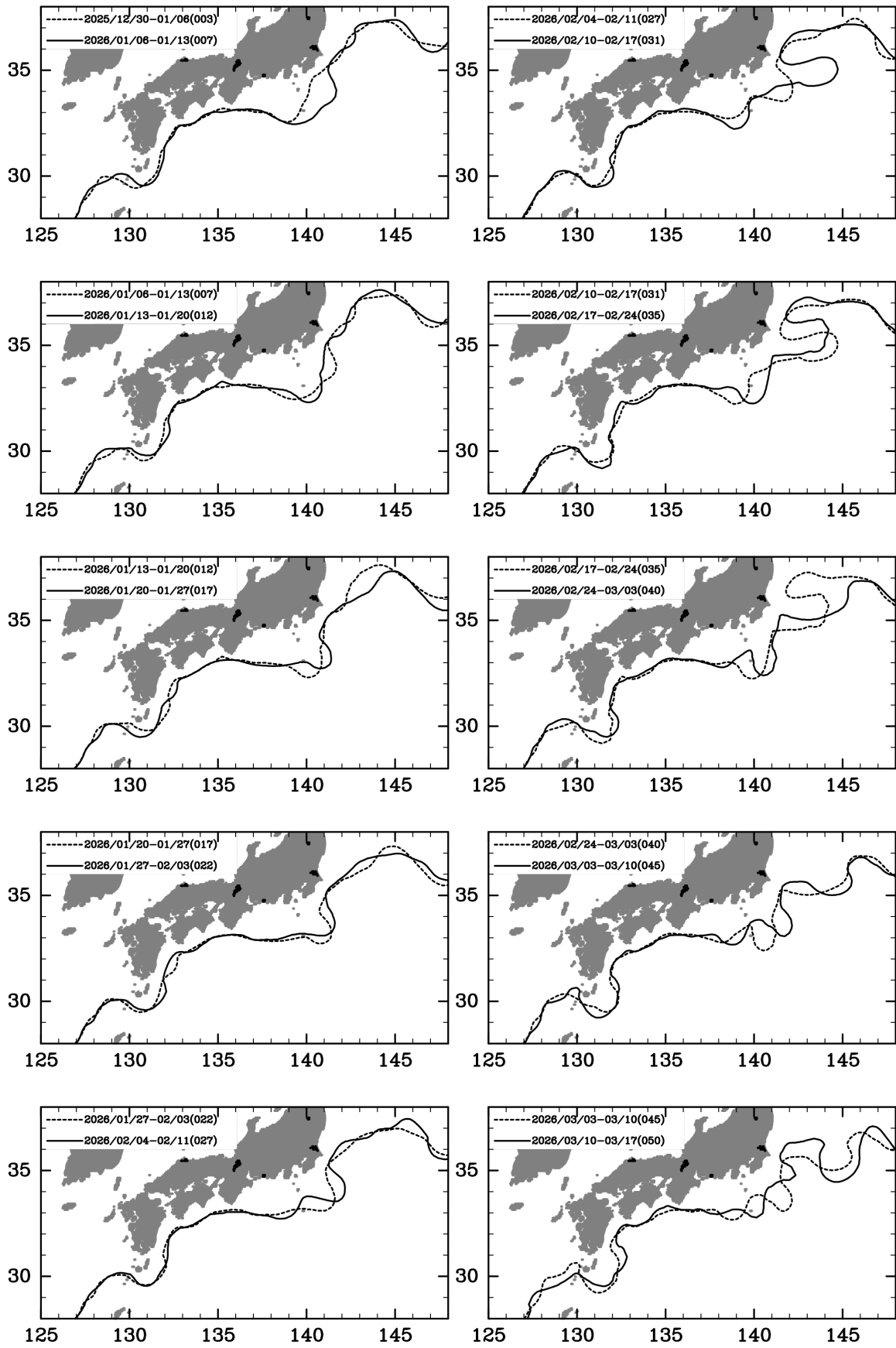


図2 (つづき) 黒潮流軸のパターン

(2026年1月~3月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

マイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し (2026年4月～7月)

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚(2026年級群)、1歳魚(2025年級群)、2歳魚(2024年級群)、3歳魚(2023年級群)、4歳魚(2022年級群)、5歳以上(2021年級群以上)。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 北薩～熊野灘(まき網、定置網)

(1) 来遊量：北薩～薩南海域～日向灘では前年並。豊後水道中南部西側では前年を下回る。豊後水道中南部東側では前年並。宿毛湾、土佐湾～紀伊水道外域西部では前年を上回る。紀伊水道外域東部では前年並。熊野灘では前年を上回る。

(2) 漁期：豊後水道中南部東側では5月～7月、その他の海域は期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：北薩～薩南海域では、期前半は15cm～18cm前後(1歳魚)、期後半は10cm前後(0歳魚)主体。日向灘では、7～15cm前後(0歳魚)主体。豊後水道南部西側では、4月は15cm前後(1歳魚)主体、5月以降は10cm前後(0歳魚)主体。豊後水道中南部東側では、5cm～10cm前後(0歳魚)主体。宿毛湾では5～10cm前後(0歳魚)と11cm以上(1歳以上)が漁獲される。紀伊水道外域西部では5～10cm前後(0歳魚)主体。紀伊水道外域東部～熊野灘では14cm以上(1歳以上)主体。

2. 伊勢・三河湾～相模湾(まき網、定置網、船曳網)

(1) 来遊量：伊勢・三河湾では前年並。駿河湾、相模湾では前年を下回る。

(2) 漁期：伊勢・三河湾、渥美外海では6月以降に漁獲される。駿河湾、相模湾では期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：伊勢・三河湾では12cm未満(0歳魚)主体。駿河湾、相模湾西部では、12cm以下(0歳魚)主体に、13cm～17cm前後(1歳魚、2歳魚)が混じる。相模湾東部では期前半は15cm～20cm前後(1歳魚)主体、期後半は12cm以下(0歳魚)主体。

3. 房総～三陸海域、道東海域(まき網、定置網)

(1) 来遊量：前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：1 そうまきの漁場は、房総～三陸海域では4月～5月に犬吠埼沖～常磐南部海域、6月に犬吠埼沖～三陸南部海域、7月に三陸南部海域～三陸北部海域で形成され、道東海域では6月以降に形成される。2 そうまきの漁場は期を通じて房総海域に形成される。定置網は、仙台湾～三陸南部海域において、期を通じて散発的に入網がみられる。

(3) 魚体：15cm未満(0歳魚)、10cm～15cm前後(1歳魚)、14cm～18cm前後(2歳魚)、15cm～19cm前後(3歳魚)、17cm～20cm前後(4歳魚)、18cm以上(5歳以上)。まき網では2歳以上主体に1歳魚が混じる。7月には房総海域において0歳魚も漁獲される。定置網では2歳魚～4歳魚主体に1歳魚、5歳魚が混じる。

漁況の経過（2025年12月～2026年2月）および見通し（2026年4月～7月）についての説明

1. 資源状態

マイワシ太平洋系群の資源量は、1980年代は1,000万トン以上の高い水準で推移したが、1990年代に入って急減し、2002年以降2009年まで10万トン前後の低い水準で推移した。その後、比較的良好な加入が続いたこと、および漁獲圧が低下したことにより資源量は増加し、2020年には500万トンを上回った。しかしその後、加入量は減少傾向にあり、2024年の資源量は400万トンと推定された(2025年度資源評価)。

2021年級群（5歳魚）以上は、最近10年（以下、近年）において高い加入量の年級群で構成されている。2025年における5歳以上としての漁獲状況は、前年を下回った。5歳以上の推定残存資源量は前年を下回っている。

2022年級群（4歳魚）は、加入量が94億尾と推定されており、2021年級群と同程度の水準となっている。2025年における3歳魚としての漁獲状況は、前年を上回った。2022年級群の推定残存資源量は2021年級群の同時期を下回っている。

2023年級群（3歳魚）は、加入量が332億尾と推定されており、2022年級群を下回る水準となっている。2025年における2歳魚としての漁獲状況は、前年を下回った。2023年級群の推定残存資源量は、2022年級群の同時期を下回っている。

2024年級群（2歳魚）は、加入量が564億尾と推定されており、2023年級群を上回る水準となっている。2025年における1歳魚としての漁獲状況は、前年並であった。2024年級群の推定残存資源量は、2023年級群の同時期を上回っている。

2025年級群（1歳魚）は、2025年における0歳魚としての漁獲状況（主に西日本海域）は、前年を上回った。一方で、沖合域においては、2025年6月～7月の北西太平洋北上期浮魚類資源調査（水産資源研究所）および9月～10月の北西太平洋秋季浮魚類資源調査（水産資源研究所）のCPUEはともに前年を下回った。現時点では不確実であるが、近年は沖合回遊群が資源の中心であることを踏まえ、2025年級群の加入量は前年を下回る水準と考えられる。

2026年級群（0歳魚）については、現時点ではその水準を予測できない。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

北薩～熊野灘での2025年12月～2026年2月（前期）の漁獲量は6,858トンと前年同期（1,481トン）を大きく上回った。（漁獲量は各地主要港水揚資料および水揚物標本測定結果等からの推定値）

・来遊量：北薩～薩南海域では、4月は1歳魚～3歳魚（2025年級群～2023年級群）、5月以降は0歳魚（2026年級群）が漁獲の主体となる。2月上旬～3月上旬に長崎県海域からの南下群と考えられる産卵親魚のまとまった漁獲が見られたため、来遊量は好調であった前年並と予測される。

日向灘では、0歳魚が漁獲の主体となる。前期の水揚量は前年を上回り、0歳魚の加入も引き続き見込まれるものの、近隣県の来遊状況も考慮して、今期の来遊量は好調だった前年並と予測される。

豊後水道南部西側では、4月は1歳魚が漁獲の主体となり、5月以降は0歳魚主体に1歳魚が混じる。

2026年1月以降、前年と同様にまき網による水揚げは低調に推移しており、近年の漁獲傾向から今後の来遊も期待できない。5月以降は0歳魚が主体となるものの、現時点で来遊水準は不明である。以上より、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

豊後水道中南部東側では、0歳魚が漁獲の主体となるため予測は難しいが、今期の来遊量は前年並と予測される。

宿毛湾、土佐湾では、0歳魚および1歳以上が漁獲される。前期における土佐湾のシラス漁で漁獲された0歳魚、および宿毛湾の中型まき網で漁獲された1歳以上の水揚量は前年を上回ったことから、今期の来遊量は前年を上回ると予測される。

紀伊水道外域西部では、0歳魚が漁獲の主体となる。前期の水揚量は前年を大きく上回った。また、黒潮が接岸傾向で推移することが予測されていることから、大型個体が漁獲される可能性もある。以上より、今期の来遊量は前年を上回ると予測される。

紀伊水道外域東部では、前期において1そうまきによる漁獲はなく、近年の傾向からすると今期も来遊は見込めない。一方で、熊野灘南部の定置網において、2026年2月にまとまった漁獲があったことから、今後も散発的に漁獲される可能性がある。以上より、今期の来遊量は前年並と予測される。

熊野灘では、1歳以上が漁獲の主体となる。前期において、沿岸加入群である1歳魚の漁獲量が前年同期を大きく上回ったことから、今期の来遊量は前年を上回ると予測される。

- ・漁期：豊後水道中南部東側では5月～7月、その他の海域では期を通じて漁獲される。
- ・魚体：近年の出現状況から、北薩～薩南海域では、期前半は15cm～18cm前後の1歳魚が、期後半は10cm前後の0歳魚が主体となる。日向灘では、7～15cm前後の0歳魚が主体となる。豊後水道南部西側では、4月は15cm前後の1歳魚が主体となり、5月以降は10cm前後の0歳魚を主体に1歳魚が混じる。豊後水道中南部東側では、5cm～10cm前後の0歳魚が主体となる。宿毛湾では5～10cm前後の0歳魚と11cm以上の1歳以上が漁獲される。紀伊水道外域西部では5～10cm前後の0歳魚主体に漁獲される。紀伊水道外域東部～熊野灘では14cm以上の1歳以上が漁獲される。

(2) 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

伊勢・三河湾～相模湾での2025年12月～2026年2月の漁獲量は633トンと前年同期（78トン）を大きく上回った。

・来遊量：伊勢・三河湾では、0歳魚（2026年級群）が漁獲の主体となる。沿岸回遊群については前年と同程度の来遊を見込めるため、今期の来遊量は前年並と予測される。

駿河湾、相模湾西部では、0歳魚主体に、1歳魚（2025年級群）および2歳魚（2024年級群）が混じる。2025年12月～2026年2月の駿河湾および相模湾西部における産卵親魚である1歳魚および2歳魚の漁獲状況は前年を大きく下回っている。また、2025年12月～2026年1月にマシラスの漁獲があったものの、産卵親魚の漁獲状況から、0歳魚の来遊量は少ないと予測される。以上より、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

相模湾東部では、期の前半は1歳魚、2歳魚主体に、期の後半には0歳魚主体に漁獲される。資源量が

減少傾向にあることから、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

- ・漁期：伊勢・三河湾では7月以降に漁獲される。駿河湾、相模湾では期を通じて漁獲される。
- ・魚体：近年の出現状況から、伊勢・三河湾では12 cm未満の0歳魚が主体となる。駿河湾、相模湾西部では、12 cm以下の0歳魚主体に、13 cm～17 cm前後の1歳魚、2歳魚が混じる。相模湾東部では期前半には15 cm～20 cm前後の1歳魚、2歳魚主体に、期後半には12 cm以下の0歳魚主体に漁獲される。

(3) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

房総以北のまき網での2025年12月～2026年2月の漁獲量は2.2万トンであり、前年同期（10.3万トン）を大きく下回った。房総以北の定置網等での2025年12月～2026年2月の漁獲量は1.2万トンであり、前年同期（3.1万トン）を大きく下回った。

- ・来遊量：各年級群の資源状態と近年の漁獲状況から、今期のまき網の漁獲対象は2歳（2024年級群）以上主体に1歳魚（2025年級群）が混じる。また、7月には房総海域において0歳魚（2026年級群）も漁獲対象となる。定置網は2歳魚～4歳魚（2024年級群～2022年級群）主体に1歳魚、5歳魚（2021年級群）が混じる。

資源状態および漁獲状況を考慮すると、漁獲の主体となる2歳以上の来遊量は前年を下回ると予測される。1歳魚の来遊量は現時点では不確実であるが、沖合域での調査結果から前年を下回ると予測される。0歳魚の来遊量は、現時点での予測は困難である。以上より、全体として今期の来遊量は前年を下回ると予測される（漁獲量はまき網の操業状況に左右される）。ただし、道東海域における来遊量は、犬吠埼沖からのマイワシの北上を阻害する海洋環境にならない場合、前年並～上回る可能性がある。また、仙台湾～三陸南部海域の定置網は前年を下回ると予測される。

- ・漁期・漁場：1 そうまきの漁場は、房総～三陸海域では、4月～5月は犬吠埼沖～常磐南部海域、6月に犬吠埼沖～三陸南部海域、7月に三陸南部海域～三陸北部海域で形成され、道東海域では6月以降に形成される。2 そうまきの漁場は、期を通じて房総海域に形成される。定置網は、仙台湾～三陸南部海域において、期を通じて散発的に入網がみられる。
- ・魚体：近年および直近の出現状況から、0歳魚は15 cm未満、1歳魚は10 cm～15 cm前後、2歳魚は14 cm～18 cm前後、3歳魚は15 cm～19 cm前後、4歳魚は17 cm～20 cm前後、5歳以上は18 cm以上。

カタクチイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2026年4月～7月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2026年級群）、1歳魚（2025年級群）、2歳（2024年級群）。

年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 西薩～常磐南部海域のシラス（船曳網）

(1) 来遊量：西薩～土佐湾、紀伊水道外域東部、鹿島灘～常磐南部海域では予測が困難。紀伊水道外域西部では低調であった前年並～上回る。伊勢湾、渥美外海では前年を上回る。遠州灘～駿河湾では前年を上回る。相模湾では前年並。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

2. 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩、薩南海域では前年並。日向灘では前年を下回る。豊後水道では前年並～下回る。宿毛湾・土佐湾では予測が困難。紀伊水道外域西部では前年を下回る。紀伊水道外域東部では主たる漁獲対象ではない。熊野灘では低調であった前年並。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：4 cm～11 cmの0歳魚、1歳魚主体。

3. 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：伊勢・三河湾では前年を上回る。相模湾西部では前年並～上回る。相模湾東部では低調であった前年並。

(2) 漁期：伊勢・三河湾では6月以降、相模湾では期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：伊勢・三河湾では12 cm以下の1歳魚主体、相模湾では9 cm～12 cmの1歳魚主体。

4. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：房総海域では低調であった前年並。常磐海域では予測が困難。仙台湾～三陸南部海域では前年を上回る。三陸北部海域ではまとまった漁獲がない。道東海域では主たる漁獲対象にはならない。

(2) 漁期・漁場：房総海域ではまき網（主に2そうまき）、仙台湾～三陸南部海域では定置網により期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：9 cm～12 cmの1歳魚主体に、13 cm前後の2歳魚も漁獲される。

漁況の経過（2025年12月～2026年2月）および見通し（2026年4月～7月）についての説明

1. 資源状態

カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2002年の291万トンピークに減少傾向に転じ、2018年に9.3万トンの最小値となった後、増加に転じて2024年は29.9万トンと推定された（2025年度資源評価）。資源動向は親魚量の最近5カ年の推移から増加傾向である。本系群は漁場が形成される沿岸域だけでなく、資源状態に応じて黒潮親潮移行域まで広く分布する。

2025年度資源評価に基づくと、2024年級群（2歳魚）の加入量は419億尾と推定され、2023年級群の

加入量を上回った。2025年における1歳魚としての漁獲状況は前年を下回った。ただし、房総海域と伊勢・三河湾などでは豊富に来遊していたマイワシを狙う操業が影響したと考えられる。これらのことから、残存資源量の水準を推測することは難しい。

2025年級群（1歳魚）は、シラスや0歳魚として主産卵場である東海海域を中心に7月以降に漁獲され、2025年のその漁獲量は前年並であった。2025年1月～6月の産卵量（I～IV区計）は2,888兆粒で、前年同期の1,576兆粒を上回った。水産資源研究所が実施した沖合域の調査船調査では、2025年6月、7月における北西太平洋北上期浮魚類資源調査（以降、北上期調査）の推定0歳魚CPUE（全測点の平均CPUEで暫定値。以下同様）は前年を下回ったが、依然として低水準であった。これらのことから、不確実ではあるが、2025年級群は2024年級群と同程度の加入量であり、1歳魚としての残存資源量も同程度の水準であると推測される。

2026年級群（0歳魚）は、現時点でその加入量水準を推測することは難しい。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 西薩～常磐南部海域のシラス（船曳網）

・来遊量：西薩～土佐湾および紀伊水道外域東部では、シラスの来遊量については予測が困難である。

紀伊水道外域西部では、春および夏シラスは、紀伊水道外域で産卵・孵化し、潮流によって来遊したカタクチワシシラス（以下、カタクチシラス）を主体に、ウルメイワシシラスが混獲される。親魚としての、当海域での2025年12月～2026年2月におけるカタクチワシの漁獲量は前年および平年（過去5年平均）を大きく下回ったが、ウルメイワシの漁獲量は前年および平年を大きく上回った。黒潮大蛇行の解消に伴い、卵稚仔の来遊が期待できることから、今期の来遊量は、2012年以降過去最低であった前年並～上回ると予測される。

伊勢湾、渥美外海では、近年は伊勢湾での卵採集数が多く、卵からふ化したシラスの生残が高まれば内湾からの供給が期待できる。一般的に沿岸域に貧栄養をもたらす黒潮大蛇行が終息したことから、今後は外海からの栄養塩供給が見込まれる。これらのことから、今期の来遊量は前年を上回ると予測される。

遠州灘～駿河湾では、5月までのカタクチシラス来遊量は、シラスの補給源となる静岡県以西のカタクチワシ親魚量と黒潮流路の影響を受けると考えられる。2025年12月以降の静岡県以西のカタクチワシ水揚量は前年同様に低調であった。一方、黒潮流路が遠州灘に接近するとシラスが不漁となる傾向があるが、今期の黒潮流路は静岡県沿岸域から離岸すると予測されている。以上のことから、カタクチシラスの来遊量は前年を上回ると予測されるが、平年（過去5年平均）は下回る。6月以降の予測は現時点では困難である。

相模湾では、期を通じて漁獲される。親魚資源であるカタクチワシ太平洋系群の資源量は増加傾向ではあるが低水準であり、神奈川県沿岸域におけるカタクチワシ漁獲量は2018年以降低水準である。以上のことから、今期の来遊量は前年並と予測される。

鹿島灘～常磐南部海域では、今期の当海域の海況は、黒潮の北偏傾向が続き、沿岸域の水温は引き続き「高め傾向」で推移する見込みであること、1月、2月の調査で成熟したカタクチワシ成魚が確認されず、カタクチワシ卵もほとんど確認されていないことから、4月までのシラス来遊量は低調であると推測され

る。一方で、沖合のまき網漁場でカタクチイワシ成魚が確認されていることから、それらが順調に成熟・産卵すれば、5月以降徐々に好転する可能性がある。なお、例年シラスが安定的に獲れだす6月以降の来遊量は現時点では予測できない。これらのことから、今期の来遊量の予測は困難である。

- ・漁期：期を通じて漁獲される。

(2) 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

・来遊量：北薩、薩南海域では、今期の漁獲主体となる1歳魚（2025年級群）について、まき網・棒受網ともに2025年12月～2026年2月の漁獲量は前年を下回ったことから、今期の来遊量は低調であった前年並と予測される。

日向灘では、近年、大羽群の漁獲はほとんどなく、今期も沿岸発生群主体になると考えられる。当海域における2025年12月～2026年2月期の漁獲はなく、またシラスの漁獲量も前年を下回っており、今後の来遊にも期待はもちにくいことから、来遊量は前年を下回ると予測される。

豊後水道南部西側では、2025年10月以降はまき網による水揚げがない状況が続いており、予測期間中の1歳魚の来遊は期待が持てない。2025年のまき網水揚量は2024年を下回っていることから、今期の来遊量は前年並～下回ると予測される。

豊後水道東側では、予測期間中における漁獲は0歳魚（2026年級群）、1歳魚が主体となる。2025年12月～2026年2月にかけて2025年級群主体の漁獲量が前年同期を下回ったことから、今期の来遊量は前年並～下回ると予測される。

宿毛湾、土佐湾では、期を通じて0歳魚、1歳以上が漁獲される。4月～7月の宿毛湾中型まき網水揚量と、前年10月～12月の宿毛湾中型まき網及び日向灘まき網の水揚量合計の間に見られていた弱い正の関係は、近年は認められなくなっている。長期予測を行う根拠を見いだせていないことから、今期の来遊量の予測は困難である。

紀伊水道外域西部では、定置網において、被鱗体長5cm～10cmの0歳魚主体に混獲される。2025年12月～2026年2月期の漁況は前年同期を大きく下回っていることから、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

紀伊水道外域東部では、未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではない。

熊野灘では、冬季に来遊する魚群は、前年夏秋季の漁獲対象とは異なり、黒潮親潮移行域から大規模回遊を行う群れと考えられ、漁獲動向も前年の熊野灘とは連動しない。前年の北上期調査の0歳魚のCPUEは低水準で推移していることから、今期の来遊量は低調であった前年並と予測される。なお、まとまった漁獲となった2月の魚群が熊野灘沿岸に滞留した場合は、少量ながら漁獲される可能性がある。

- ・漁期：期を通じて漁獲される。
- ・魚体：4cm～11cmの0歳魚、1歳魚主体。

(3) 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

・来遊量：伊勢・三河湾では、漁期は6月以降で、7月以降に本格化して、1歳魚（2025年級群）が主な漁獲対象となる。カタクチイワシ太平洋系群が低水準のため、愛知県沿岸部および内湾への来遊量の急増

は見込めないが、来遊量に応じて、漁期開始時期を調節することで、漁獲量の増加は見込まれる。また、前年は内湾由来のシラスが漁獲されなかったが、黒潮大蛇行が終息し、外海からの栄養塩供給が期待されることから、内湾でシラスから成長した群の加入が期待できるため、今期の来遊量は前年を上回ると予測される。

相模湾西部では、定置網で他魚種に混ざって漁獲される。漁獲対象となる1歳魚(2025年級群)の資源水準は引き続き低水準と推定されている。一方、3月に入って駿河湾周辺のまき網や定置網において、カタクチイワシの水揚げが確認されていることから、今期の来遊量は前年並～上回ると予測される。

相模湾東部では、期を通じて体長9 cm～12 cmの1歳魚主体に漁獲される。2018年以降における相模湾主要定置網の4月～7月の漁獲量は、2017年以前と比べ明瞭に低下しているが(2013年～2017年平均147.2トン、2018年～2022年平均18.7トン、2023年～2025年平均85.5トン)、カタクチイワシ太平洋系群の資源状態は低水準であるもののやや増加傾向であることから、今期の来遊量は前年並と予測される。

- ・漁期：伊勢・三河湾では6月以降、相模湾では期を通じて漁獲される。
- ・魚体：伊勢・三河湾では12 cm以下の1歳魚主体、相模湾では9 cm～12 cmの1歳魚主体に漁獲される。

(4) 房総～三陸海域、道東海域(まき網、定置網)

・来遊量：房総海域では、FRA-ROMS II(水研機構)によると2月以降、常磐以北の海域において水温が高い状況が続いており、東北海域からカタクチイワシが南下しづらい海況であると推測される。南下過程の来遊状況については、2025年12月から2026年3月までの房総周辺海域における1歳魚の漁獲量は1,797トン(3月16日までの暫定値)で、前年同期(1,917トン)と同程度となっている。2歳魚(2024年級群)以上は、混じる程度であった前年を上回る漁獲となったため予測期間中においても来遊量は前年を上回ると推測されるが、主体とはならない。北上過程の来遊状況については、相模湾～遠州灘では前年並または依然として低水準であることから、予測期間中の漁獲主体となる1歳魚の来遊量は前年並の低水準と推測される。以上より、漁獲主体になる1歳魚の来遊量を反映して、全体としての来遊量は低調であった前年並と予測される。ただし、マイワシの漁況が低調であり、魚種選択により漁獲量としては上回る可能性がある。

常磐海域では、2017年3月以降茨城県での水揚げがないこと、1そうまきは周年サバ類やマイワシを主な漁獲対象にしていることから、来遊量の予測は困難である。

仙台湾～三陸南部海域では、例年、2月以降は水温の低下とともに群れが南下し、終漁となる年が多い。しかし2026年は、前年並の水温(水温の平年値は1991年～2020年の平均値)で推移しているものの3月中旬時点で水揚げが継続しており、4月以降も続くと推測される。また、1月に宮城県沿岸へ来遊した南下群の水揚量が前年を上回ったことから、5月～6月に宮城県沿岸へ来遊する北上群も前年を上回る水準と推測される。以上のことから、今期の来遊量は前年を上回ると予測される。

三陸北部海域では、漁業情報から、今期もまとまった漁獲がない。

道東海域では、釧路水産試験場が実施した調査船調査の結果から、当該海域におけるカタクチイワシの来遊量が増加傾向にあると推測されるため、予測対象期間内に道東海域に来遊する可能性はある。一方、小型浮魚類を対象とした漁業では、カタクチイワシではなくマイワシが主な漁獲対象になると推測される。したがって、予測対象期間にカタクチイワシを対象とした漁獲が行われる可能性は低い。

・漁期・漁場：房総海域ではまき網（主に2 そうまき）、仙台湾～三陸南部海域では定置網により期を通じて漁獲される。

・魚体：9 cm～12 cmの1歳魚主体に、13 cm前後の2歳魚が漁獲される。

参 画 機 関

| | |
|--|---|
| 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場 | 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター |
| 地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所 | 和歌山県水産試験場 |
| 岩手県水産技術センター | 徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課 |
| 宮城県水産技術総合センター | 高知県水産試験場 |
| 福島県水産海洋研究センター | 愛媛県農林水産研究所 水産研究センター |
| 茨城県水産試験場 | 大分県農林水産研究指導センター 水産研究部 |
| 千葉県水産総合研究センター | 宮崎県水産試験場 |
| 東京都島しょ農林水産総合センター | 鹿児島県水産技術開発センター |
| 神奈川県水産技術センター | 一般社団法人 漁業情報サービスセンター |
| 静岡県水産・海洋技術研究所 | (取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所 |
| 愛知県水産試験場 漁業生産研究所 | |
| 三重県水産研究所 | |